

令和6年度事業報告

令和6年度は、令和6年3月の第28回理事会の議決を経た事業計画に基づき、研修、橋梁保全に関する調査研究、シンポジウム、講演会、助成、国外内の支援活動、広報及び橋梁の診断業務等を実施した。

1 実施事業等

1-1 研修等

(1) 道路橋点検士技術研修会

道路橋の点検を担う技術者の更なる技術力の向上や点検結果の精度・信頼性の確保を図るため、令和6年度に道路橋点検士技術研修会を3回実施した。研修修了者は315名で、平成6年度からの累計開催数は126回、累計修了者は16,849名となった。なお、令和6年7月に橋梁定期点検要領の改定があり、この内容を反映して研修会を行うこととしたため開催時期が遅れ、開催回数は減となった。

また、道路管理者を対象とした道路橋点検技術講習会を1回開催し、38名が受講した。

(2) 道路橋点検士制度

令和2年度以降の道路橋点検士技術研修会を修了した技術者等を対象に、道路橋点検士および道路橋点検士補の登録申請を受け付けた。申請を審査し、登録した状況は以下のとおりであった。

	登録者数		国土交通省登録資格
	令和6年度	累計	
道路橋点検士	287名	9,380名	平成27年1月登録 (令和7年2月更新)
道路橋点検士補	45名	1,449名	平成28年2月登録 (令和3年2月更新)

また、道路橋点検士及び道路橋点検士補の更新期限（研修を修了した年度の翌年度から4年間）を迎える技術者等を対象とする道路橋点検士更新講習会を開催し、1,211名が受講した。なお、受講者の移動等の負担軽減を図るため、インターネットを活用したオンライン講習にて実施した。

さらに、道路橋点検士委員会が道路橋点検士技術研修会と同等であると認定した他機関が実施する道路橋の点検に関する研修会・講習会の合格者等を対象に、道路橋点検士補検定試験を1回実施し、10名が合格した。うち7名が道路橋点検士補の申請を行った。

1－2 自主研究

(1) 橋梁保全に関する調査研究

①道路橋点検・診断結果の蓄積と活用に関する研究

令和 6 年度に定期点検要領が改定されたことを受け、改定後のデータを蓄積できるようデータフォームを改修した。また、改定前から行っているデータ分析を継続するとともに、新たに蓄積することになったデータも活用した分析について検討し、そのデータの抽出を行った。

②AI を活用した道路橋のメンテナンスの効率化に関する研究

平成 30 年度から実施してきた AI を活用した道路橋メンテナンスの効率化に関する共同研究の成果を踏まえて構築した「橋梁診断支援 AI システム」を公開した。

③道路橋点検の効率化・高度化に向けた新技術の利活用に関する研究

新技術の利活用を支援する点検支援技術性能カタログについて、掲載技術数が毎年着実に増えていることを踏まえ、掲載項目の統一化や開発者の利便性向上を図るため、入力システムの機能向上について検討を行った。

④道路橋データベース利活用促進に向けての研究

令和 4 年度に立ち上げた「道路橋データベースの利活用に関する検討委員会」において、道路橋データベース利活用促進に向けての課題や今後の方向性についてとりまとめ、これを当調査会ホームページにて公開した。

(2) 国際会議等への参加

以下の国際会議等に職員を派遣し、海外の橋梁事業調査、インフラ維持管理技術等に関する意見交換、情報収集を行った。

会議名	日程	会議・視察場所
IABSE Symposium MANCHESTER 2024	4 月 9 日～4 月 18 日	マンチェスター、エジンバラ(イギリス)、 フランクフルト、ケルン(ドイツ)
IABMAS2024 - COPENHAGEN	6 月 23 日～7 月 1 日	コペンハーゲン(デンマーク)、 ストックホルム(スウェーデン)
fib SYMPOSIUM 2024 Christchurch	11 月 9 日～11 月 16 日	クライストチャーチ、オークランド (ニュージーランド)

(3) 講演会・セミナーの開催

①橋梁シンポジウム

橋梁に関心のあるすべての方を対象に、講演テーマを「次世代への橋梁維持管理」として開催した。立命館大学教授の建山和由氏による「人口減少社会を迎えて～ 建設業の課題と挑戦～」と題した基調講演をはじめ、国土交通省国土技術政策総合研究所長や、建設コンサルタンツ協会、日本橋梁建設協会、プ

レストレスト・コンクリート建設業協会の代表者による講演を行った。

会場とライブ配信のハイブリッド方式で開催し、会場参加者は 98 名、配信視聴者は 419 名であった。また、希望者 220 名へ CPD 登録のための受講証明書を発行した。

②賛助会員特別講演会

賛助会員を対象に、橋梁調査会の取組を紹介するとともに、高知工科大学教授の那須清吾氏による「デジタル/知識社会の経営・人材・DX 創造～地域活性化と道路アセットマネジメント～」をテーマとした講演を行った。

会場と録画配信のハイブリッド方式で開催し、会場参加者は 74 名であった。後日、賛助会員専用ホームページにて講演の動画を公開した。

③賛助会員向け橋梁メンテナンスセミナー

賛助会員を対象に、橋梁のメンテナンスに関する情報の提供、実務で生じている課題の共有とその解決を目的として開催した。地方公共団体のインフラメンテナンスの取組に関して、国土交通省総合政策局公共事業企画調整課 企画官、舞鶴工業高等専門学校建設システム工学科 教授および（一財）京都技術サポートセンター土木課 主査から話題提供を行い、その後、セミナー参加者によるディスカッションを行った。

会場とライブ配信のハイブリッド方式で開催し、会場参加者は 6 名、配信視聴者は 90 名であった。また、希望者 56 名へ CPD 登録のための受講証明書を発行した。

（４）助成

橋梁技術に関する研究開発計画を公募し、優秀な計画と認められた次の 3 テーマに対して、その研究開発に要する費用の一部を助成した。なお、令和 6 年度より、2 ヶ年にわたる計画も助成対象とすることにした。

- ・橋梁上における強風時車両走行安全性と遮風壁に関する研究
- ・三次元微細構造解析を用いた橋梁床版接合部の構造性能評価（2 ヶ年）
- ・道路橋の既設木杭基礎の大地震時における耐震性評価法の開発（2 ヶ年）

（５）国際支援活動

JICA が実施する国際協力研修に講師を派遣した。

研 修 名	時 期	研修 参加人数
パキスタン国パンジャブ州における 道路アセットマネジメントシステム能力向上プロジェクト	8 月 22 日	13 名
課題別研修「橋梁維持管理（技術者向け）コース」	10 月 3 日	13 名

1－3 広報

(1) 広報

機関誌「J_BEC レポート」Vol.20 を刊行した。約 2,000 部印刷し、賛助会員をはじめ関係者へ配布した。

(2) 建設技術フェア等への協力（参加・後援・協賛等）

地方整備局等が主催する建設技術展等のイベントに参加し、橋梁の点検・診断技術や点検支援技術等に関する発表を行うとともに展示を行った。

また、「建設技術フェア 2024in 中部」や「インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム 2024」等への後援、「橋梁模型コンテスト」等への協賛を行った。

(3) ホームページを活用した広報

ホームページについて、橋梁に関する技術者だけでなく、一般の方にも利用しやすいものとなるようリニューアルした。

2 その他事業

2－1 調査研究業務

(1) 橋梁の診断業務

国が管理する道路橋について、国土交通省の「道路橋定期点検要領（令和 6 年 3 月）」及び「橋梁定期点検要領（令和 6 年 7 月）」に基づき、現地にて状態の把握を行った上で、性能に関する技術的な評価及び措置の必要性の検討を行い、道路管理者が健全性の診断の区分を決定するための情報の記録を行った。

(2) 橋梁の補修・補強に関する業務

メンテナンスサイクルの高度化・効率化を図ることを目的に、中国地方整備局管内における過年度の直轄橋梁メンテナンスデータ（点検・診断・補修等）を把握・整理し、管内橋梁の橋種や部位毎の損傷傾向、進行状況等を把握するとともに、2 巡目点検までの損傷傾向を把握・分析した。

(3) 総合評価落札方式による工事発注のための技術支援業務

四国地方整備局において実施された総合評価落札方式による橋梁に関する工事発注手続きにおいて、技術提案書の分析・整理を行うなど支援を行った。

(4) 新技術を活用した道路橋の点検支援に関する業務

令和 5 年度新技術導入促進計画において、技術テーマ「橋梁の点検支援技術」と「道路構造物の計測・モニタリング技術」について導入促進機関として指定（令和 8 年 3 月 31 日まで）を受けている。

「橋梁の点検支援技術」については、当該分野に精通する専門家等からなる技

術検討委員会を設置・運営し、その助言を得ながら点検支援技術の公募や実証試験等を行った。また、点検支援技術の現場実装を促進するため、これら技術について点検支援技術性能カタログへの掲載に向けたとりまとめ等を行った。これまでの掲載数は平成 30 年度からの累積で 205 技術となった。

「道路構造物の計測・モニタリング技術」については、災害発生時（地震，豪雨など）に、車両の通行可否等の把握、構造物の耐荷力不足の兆候や異常等の検知などを行う技術の導入促進を図るためのガイドライン（案）作成を目的として検討を進めた。

（５）道路橋維持管理施策に関する業務

道路メンテナンス年報の作成に必要なデータとして、点検実施状況、修繕等措置の実施状況および措置が必要な橋梁の状況について整理した。

（６）道路橋データベースに関する業務

全国道路施設点検データベース（道路橋）について、令和 6 年の定期点検要領改定に対応してデータ登録、帳票作成、出力の各機能の改良を行った。また、データ閲覧・取得するための公開用 API と、データ登録するための登録用 API を追加実装した。

（７）地方公共団体等の道路橋維持管理に関する支援業務

島根県及び京都府等が実施する橋梁の維持管理全般を支援するため、橋梁の点検・診断、補修・補強に関するアドバイス等を実施した。

２－２ 道路橋データベースの管理運営

道路橋の諸元と点検結果に関するデータの閲覧・取得サービス、点検結果等登録サービスについて、通年でこれらの提供を行った。

有償データの閲覧・取得については、全国版で 81 ユーザ、地域版で 84 ユーザの利用があった。

登録サービスについては、国が管理する道路橋の定期点検結果や第三者被害予防措置等について、のべ 475 ユーザの利用があり、15,876 橋分のデータが登録された。

２－３ 橋梁に関する人材育成支援業務

国土交通省及び地方公共団体の職員を対象とした橋梁の維持管理等に関する研修を支援した。具体的には、47 の研修等について、のべ 120 名の職員を派遣し約 1,400 名の研修を支援した。また、小学生や若手技術者といった道路管理者以外を対象とする講習会等の支援も実施した。

2－4 出版

「道路橋の補修補強計算例Ⅱ」等の販売を行った。

3 会議の開催等

3－1 会議の開催

(1) 理事会

第29回理事会 令和6年6月5日（Web会議併用による決議）

決議事項：令和5年度事業報告(案)及び決算(案)について

第13回定時評議員会の招集について

報告事項：職務執行状況報告

第30回理事会 令和6年8月30日（Web会議併用による決議）

決議事項：専務理事の選定について

第31回理事会 令和7年3月24日（Web会議併用による決議）

決議事項：令和7年度事業計画及び予算について

役員等賠償責任保険契約の締結について

報告事項：職務執行状況報告

(2) 評議員会

第13回評議員会 令和6年6月20日

決議事項：令和5年度決算の承認について

理事の選任について

評議員、理事及び監事報酬規定の改正について

報告事項：令和5年度事業報告について

3－2 職員の技術力向上

(1) 技術会議等への参加

技術力向上のため、コンクリート構造物の補修補強に関するフォーラム2024や橋梁用支承部に着目した震災損傷事例（能登半島地震）と被害分析（熊本地震）といった講演会や技術会議に職員を参加させた。

(2) CPD取得

職員の技術力の維持向上のため、継続学習を支援し、CPD取得を奨励した。

事業報告に係る附属明細書

1. 事業報告の内容を補足する重要な事項
該当する事項はありません。

令和 7 年 6 月

一般財団法人 橋梁調査会